

→今月の【 掲示板 】2024/4月~2024/5月

今月の待合室は、薬剤科より『糖尿病治療薬について』を掲示しています。

今月の担当は 薬剤科 です

腎保護効果がある薬として、最近ではこの2つの薬が注目されています

- SGLT2(エスジェエルティーツー)阻害薬
- GLP-1(ジーエルピーワン)受容体作動薬

当院では腎臓病教室も開催しております。参加無料です。どなたでもお越しください！

SGLT2(エスジェエルティーツー)阻害薬とは？どんな効果があるの？

- SGLT2阻害薬は主に腎臓に作用します。
- 利尿作用を有し、血圧を下げます。(利尿薬と分類が異なります)
- 腎臓の血流を増進し、蛋白尿や糖質尿を減少させます。
- 腎臓の糸球体機能は、全身から腎臓へ送られる血液の量を調節し、必要な成分だけを濾し取ります。
- SGLT2阻害薬は、糸球体から送られる血液の量を調節し、必要な成分だけを濾し取ります。

GLP-1(ジーエルピーワン)受容体作動薬とは？どんな効果があるの？

GLP-1は小腸から出されるホルモンの一つで血糖を下げる効果があります。GLP-1受容体作動薬はこのホルモンと似たような働きをするので、血糖値が高くなったときに正しい量のインスリンを出すように働きかけ、血糖を下ります。

- ピクトーザ注
- オゼンピック注
- トリリシティ注
- ソルトファイブ 持続型インスリン製剤「トレスバ」とGLP-1受容体作動薬「ピクトーザ」の配合剤です。
- リベルサス錠 示尿のみ薬です。
- マンジャロ注 GLP-1受容体だけでなくGIP受容体にも作用してインスリン分泌を促進し、血糖を下げる作用があります。体重減少効果も期待できます。

糖尿病性腎症は、糖尿病の慢性合併症のひとつです。

糖尿病は、血糖値が高いまま進行すると、腎臓の機能が低下する。糖尿病性腎症と呼ばれる慢性の腎臓病を発症することがあります。

糖尿病性腎症になると血液をきれいにする機能が低下します。

腎臓は「ろ過器」として、血液中の不要な成分をろ過し、尿として排出します。糖尿病性腎症になると、ろ過機能が低下し、血液中の不要な成分が蓄積して、さまざまな合併症を引き起こします。

糖尿病性腎症は、第1期から第5期まで。定期検査・早期治療が大切です。

糖尿病性腎症の進行は5段階に分かれます。第1期から第5期まで、定期的な検査と早期治療が大切です。

自分の腎臓の状態を把握しましょう。

腎臓の状態を把握するために「血清クレアチニン」を測定します。クレアチニンは、筋肉から分泌されるタンパク質で、腎臓でろ過されます。クレアチニン値が高くなるほど、腎臓の機能が低下している可能性があります。

腎臓病のステージ	血清クレアチニン (mg/dL)	eGFR (ml/min/1.73m ²)
第1期	< 1.3	> 90
第2期	1.3 - 1.7	60 - 89
第3期	1.7 - 2.9	30 - 59
第4期	2.9 - 5.6	15 - 29
第5期	> 5.6	< 15

治療の基本は、適切な食事療法・血糖管理と定期的な通院・検査です。

糖尿病性腎症の治療の基本は、適切な食事療法・血糖管理と定期的な通院・検査です。

あなたに適した血糖管理の目標は

血糖値を適切に管理することは、糖尿病性腎症の進行を遅らせるために重要です。

項目	目標値
HbA1c	< 7.0%
空腹血糖	< 126 mg/dL
食後血糖	< 180 mg/dL

血糖値のほかに注意すべきことは？ 血圧・脂質などにも注意しましょう。

糖尿病性腎症の治療には、血糖値だけでなく、血圧・脂質の管理も重要です。

項目	目標値
血圧	< 130/80 mmHg
総コレステロール	< 180 mg/dL
LDLコレステロール	< 100 mg/dL